

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年8月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は4から2に減少。「減少した」業種は5から7に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は15から11に減少。「減少した」業種は6から11に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は3のまま変化なし。「悪化した」業種は15から14に減少。

前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は3から4に増加。「減少した」業種は9のまま変化なし。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は4から9に増加。「減少した」業種は17のまま変化なし。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は1から2に増加。「悪化した」業種は25から26に増加。

製造業

■しよゆ製造

【県内全域】

県内産小麦、放射性物質の問題を先月に続き注視している。

■漬物製造

【県内全域】

震災以降、業務用卸、観光物産関連が一時よりはよくなったものの、対比の7〜8割までしか持ち直しておらず、スーパーも低価格での販売が多くなってきた。

■豆腐製造

【県内全域】

給食の休止、盆連休のため、需要が少なく、最も伸び悩んだ月だった。

■めん製造

【県内全域】

8月24日、農水省は、23年10月期の輸入麦の政府売渡し価格を発表した。原料小麦粉としての改定は数か月後となる。

■牛乳小売

【県内全域】

震災及び原発事故による牛乳の買い控えが多く、景況が悪化。

■製材

【県内全域】

東日本大震災を受け、エンドユーザーの防災意識が高くなっている。耐震性の高い住宅に住んだり、自宅の耐震診断や耐震補強への関心が高まっている。

■製材

【木更津】

原木の入港なし。

印刷

【県内全域】

大地震で被災した製紙会社、資材会社から相次いで値上げの発表があった。印刷インキメーカーは6月以降全社が値上げし、この他フィルム、石油系溶剤、さらに版材の値上げ通知も届いている。一部の用紙ではメーカー在庫が全く無くなり、印刷する用紙の確保に支障が出ている。値上げ前の生産調整の影響なのか、節電対応の生産調整の影響なのか、先ず用紙の確保、次にコストアップをいかに吸収していくかが、最大の課題。

■電気鍍金

【千葉】

長引く円高、株安、原材料の高騰、電力不足などの背景により、生産活動は未だ復調が見られない。昨年夏以降徐々に復調が見られるようになったが、3/11の東日本大震災の発生で、前年対比5割余りの減産となったが、このところ徐々に回復の兆しが見えてきた。

■鉄工業

【千葉】

震災、原発のハンデあるものの、受注増・販売増の傾向から、足元の景気は持ち直している組合員が多い。その一方で、過度な円高状況が続いており、懸念視している。

■機械部品製造

【野田】

回復傾向も円高・株安状況で値引きや、減産に転じる状況にある。円高が続き、海外生産検討も出てきている状況が伺える。

■機械部品製造

【流山】

電力規制に伴い、輪番休業、電力使用制限も行っており、製造量が減少するなどの影響が発生している。

■機械部品製造

【柏】

全体的に重苦しい環境。震災、原発、復興、終息の道筋が見えない。円高による中小企業への課題増。地殻変動、政治空白、変化対応への遅れからくる不安。中小企業にとつての中長期的方向選択に遅れがちなことが非常に問題。また、組合員の各取引先からの円高、為替によるコストダウン依頼対応で苦慮。

■非製造業

【米穀卸】 7月から品薄が続き、九州産米で対応したが、千葉県産米の放射能検査がパスしたことで8月中旬から入荷が順調になった。但し価格は上昇傾向。

【事務機文具】 震災以降の落ち込み回復は6月までで、7・8月は節電影響等から需要低調。

【漬物製造卸】 放射能汚染の影響

で、仕入れ野菜の産地変更や原材料表示の変更等負担増加。

■食肉卸売

【千葉市他】

原発事故の影響で肉牛の価格が悪化している。肉牛価格の下落、飼料価格の高止まり等により、農家の経営環境が厳しくなっている。

■建築材料卸売

【県内全域】

セメント価格値上徐々に浸透。7月から段階的に値上を受け入れているが、メーカーの目標水準まで未達のため引き続き下期も値上の攻防が続く。典型的内需産業のため海外移転もままならず国内インフラ整備に期待するのみ。

■自動車解体業

【県内全域】

8月は稼働日数が少ないため、どうしてもポリウムがダウンする。円高が進んでいることが今後かなり収益を圧迫すると思われる。海外に流出されている金属スクラップの国内での再利用の検討の議論が活発になってきている。

■乾物卸売

【県内全域】

景況感は、前年に比べ低調。前月同様、中元期等夏場の需要期であるが、進物用を中心に低迷している。9月より海苔の販促キャンペーン「手巻総選挙」が実施される。効果を期待したい。

■小売

【柏】

軽衣料品を中心とした低価格商品が売れている。一部秋物商品も陳列されているが、気温が高く動いていない。

■電気機器小売

【県内全域】

地デジ化終了後、東日本震災の影響もあって、消費者の販売意欲が低下、大変厳しくなっている。

■青果小売

【千葉市】

果物の入荷が震災の影響で減少、高値となり、動きが悪かった。一方、野菜は一部の商品を除き、安値となり売りやすい状況であった。

■中古車仕入・販売

【県内全域】

成約低下傾向に世界経済減速の影響という悪化傾向にある。

■小売

【東金】

震災による影響で7月・8月の購買行動が減退傾向であった。夏のバーゲンセールを早く始めたが、8月までバーゲンを引き伸ばしての売場展開となった。その中でも、食品関係は健闘している。

■小売

【野田】

半数を超える店舗が、売上前年比を上回った。特に食品、衣料品が売上増に貢献した。

■小売業・サービス

【柏】

先月は前年並みに戻してきた事

業所が目立ってきたが、8月はまた後退したという事業所が増えた。

■一般廃棄物処理

【千葉】

先月に比べるとあまりよくないが、引き続き、テレビ等の排出量が多かったことにより、前年同月比は景況好転の結果となった。

■ソフトウエア

【県内全域】

8月という比較的仕事の少ない時期であることを考慮しても依然厳しい状況である。

■建設業

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は、千葉1593百万、北総2026百万、海匝624百万、香取731百万、君津863百万、安房415百万、長生303百万、山武809百万、市原887百万、京葉821百万、夷隅463百万、合計9535百万であった。前月比2909百万の増加となった。地域によってばらつきはあるものの、県下全域で受注額が増えた。

■貨物運送業

【野田市】

引き続き、景気に不安感はあるものの、暑い夏のおかげで季節物が動き、前年及び前月比は増加。

■輸出入業

【県下全域】

対前年比は少し上昇し、82.5%までに回復してきた。